

岡山県感染症週報 2014 年 第 38 週 (9 月 15 日～9 月 21 日)

9 月 24 日～30 日は『結核予防週間』です。

岡山県は『腸管出血性大腸菌感染症 警報』発令中です。

◆2014 年 第 38 週 (9/15～9/21) の感染症発生動向 (届出数)

■全数把握感染症の発生状況

第 36 週 2 類感染症 結核 2 名 (70 代 女 1 名、80 代 女 1 名)

第 37 週 2 類感染症 結核 1 名 (60 代 女)

第 38 週 2 類感染症 結核 3 名 (70 代 女 1 名、80 代 女 2 名)

4 類感染症 日本紅斑熱 1 名 (70 代 女)

5 類感染症 破傷風 1 名 (10 代 女)

■定点把握感染症発生状況

○RS ウイルス感染症は、県全体で 25 名 (定点あたり 0.48 → 0.46 人) の報告があり、前週とほぼ同数でした。

○A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、県全体で 37 名 (定点あたり 0.24 → 0.69 人) の報告があり、前週より増加しました。

1. **日本紅斑熱**は、第 38 週に 1 名の報告があり、2014 年累計報告数は 4 名となりました。この感染症は、病原体 (日本紅斑熱リケッチア) を保有するマダニに咬まれることで感染し、春から初冬にかけて発生報告されています。ダニが媒介する感染症は、日本紅斑熱の他に、重症熱性血小板減少症候群 (SFTS)、つつが虫病などがあります。作業やレジャーなどで野山や草むらに入るときは、肌の露出を少なくするなど、ダニに咬まれないように注意しましょう。詳しくは、岡山県感染症情報センターホームページ『[「日本紅斑熱」に注意しましょう。](#)』及び『[ダニが媒介する感染症に注意しましょう。](#)』をご覧ください。
2. **RS ウイルス感染症**は、県全体で 25 名 (定点あたり 0.48 → 0.46 人) の報告があり、前週とほぼ同数でした。詳しくは、『[今週の注目感染症](#)』をご覧ください。
3. **A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎**は、県全体で 37 名 (定点あたり 0.24 → 0.69 人) の報告があり、前週より増加しました。過去 5 年間の同時期と比較してやや多い状態です。備中及び備北を除く県下の広い地域で増加がみられました。この感染症は、A 群溶血性レンサ球菌という細菌による感染症で、発熱、のどの痛み、嘔吐などがみられます。口腔内に小点状出血あるいは莓舌 (莓のように赤くブツブツしている舌) がみられることもあります。就学前から学童期の小児に多い感染症です。手洗いやうがいを行うなど、感染予防に努めましょう。

流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ	↓		RS ウイルス感染症	→	★
咽頭結膜熱	↓	★	A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↑	★★★★
感染性胃腸炎	→	★★	水痘	→	★
手足口病	→	★	伝染性紅斑	→	
突発性発疹	→	★★	百日咳	→	
ヘルパンギーナ	↓	★	流行性耳下腺炎	→	★
急性出血性結膜炎	→		流行性角結膜炎	→	★
細菌性髄膜炎	→		無菌性髄膜炎	→	
マイコプラズマ肺炎	↑	★	クラミジア肺炎	→	
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	↑				

【記号の説明】 前週からの推移: ↓ : 2 倍以上の減少 ↘ : 1.1～2 倍未満の減少 → : 1.1 未満の増減

↗ : 1.1～2 倍未満の増加 ↑ : 2 倍以上の増加

発生状況: 空白: 発生なし ★: 僅か ★★: 少し ★★★: やや多い ★★★★: 多い ★★★★★: 非常に多い
今週の流行状況を過去 5 年間で比較し、5 段階で表示しています。

感染性胃腸炎 (ロタウイルス) については、平成 25 年第 42 週から報告対象となったため、前週からの推移のみ表示しています。

9 月 24 日～30 日は『結核予防週間』です。

～ 長引く咳は “ 風邪 ” … “ 結核 ” かも !? ～

日本において、結核は過去の病気ではなく、いまだ年間約 2 万人の患者が新たに報告されており、依然として重要な感染症です。日本では、結核を知り、正しい知識を深める期間として、9 月 24 日～30 日を「結核予防週間」としています。「結核予防週間」には、結核予防意識の一層の普及を図るため、街頭キャンペーンや各保健所・市町村での普及啓発活動などを行っています。

- ・咳が 2 週間以上続く。
- ・微熱が 2 週間以上続く。
- ・体がだるい。
- ・急に体重が減った。

➡ こんな症状が続いたら、結核かもしれません。

【結核とは】

結核菌による感染症です。主に、咳などの飛沫により感染します。多くの場合、肺結核として発症し、咳、痰、微熱が典型的な症状です。胸痛、呼吸困難、血痰、全身倦怠感、食欲不振などを伴うこともあります。初期には無症状のことも多くあります。肺以外の腎臓、骨、腸管など身体のあらゆる部分に病巣を作ることもあります。

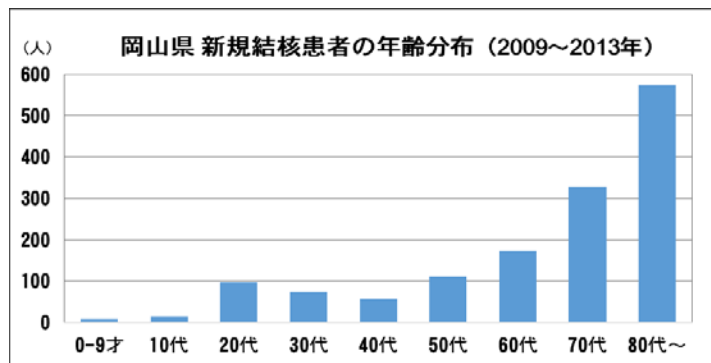
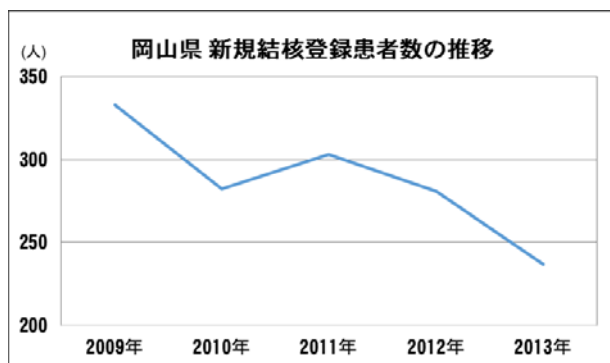
結核は、重症化した場合は、排菌量が増加するとともに、排菌する期間が長くなり、他の人にうつしてしまう可能性が非常に高くなります。咳が 2 週間以上続く等の症状がある場合は、早めに医療機関を受診しましょう。咳が出ている時には、マスクを着用する等、咳エチケットを心がけましょう。

【結核の予防接種や検診を受けましょう】

乳幼児は抵抗力が弱く、結核菌に感染すると重症化しやすいため、予防接種を行うことが重要です。小児では、結核の重症化を防ぐ BCG を接種することで、十～十数年は結核を予防することができますと言われています。生後 1 年未満の乳幼児であれば、無料で予防接種を行うことができます。

また、結核の早期発見のため、職場や地域の健康診断を積極的に活用し、1 年に 1 回は検診を受けましょう。

【岡山県の結核発生状況】



2014 年、岡山県では、第 37 週までに結核発生届（患者、無症状病原体保有者、疑似症患者）が 256 件報告されています。過去 5 年間（2009～2013 年）の新規結核患者の発生状況をみると、毎年 300 人前後の患者が報告されています。年代別では、70 歳以上の高齢者で多く報告されています。

【全国の結核発生状況】

厚生労働省の 2013 年度年報によると、国内で新たに登録された結核患者は 20,495 名でした。このうち、70 歳以上の患者が 57.4% を占めており、前年よりも増加しました。全国の人口 10 万人あたり罹患率は 16.1 で年々わずかに減少しています。罹患率については地域差がみられ、首都圏、中京、近畿地域などでの大都市で高い傾向がづいています。岡山県の罹患率は、12.0 と全国平均と比較して低値でした。

[平成 25 年結核登録者情報調査年報集計結果（厚生労働省）](#)

今週の注目感染症

RSウイルス感染症

【RSウイルス感染症とは】

RSウイルス感染症は、RSウイルスによる急性呼吸器感染症です。この感染症は、例年冬期にピークがみられ、夏期は報告数が少ない状態でしたが、2011年以降、7月頃から患者の増加が認められるようになりました。感染後2～8日の潜伏期間ののち、発熱、鼻汁、咳などの風邪症状が現れます。約70%の乳児が、生後最初の1年間でRSウイルスに感染し、その約3割が肺炎や細気管支炎を引き起こします。母体からの移行抗体では感染を防ぐことができないため、生後6ヶ月以下の乳児においては重症化し、入院を必要とすることもあります。年齢を問わず、生涯にわたり感染・発症を繰り返しますが、通常は年齢が上がるにつれて、重症化しにくくなります。

【感染経路】

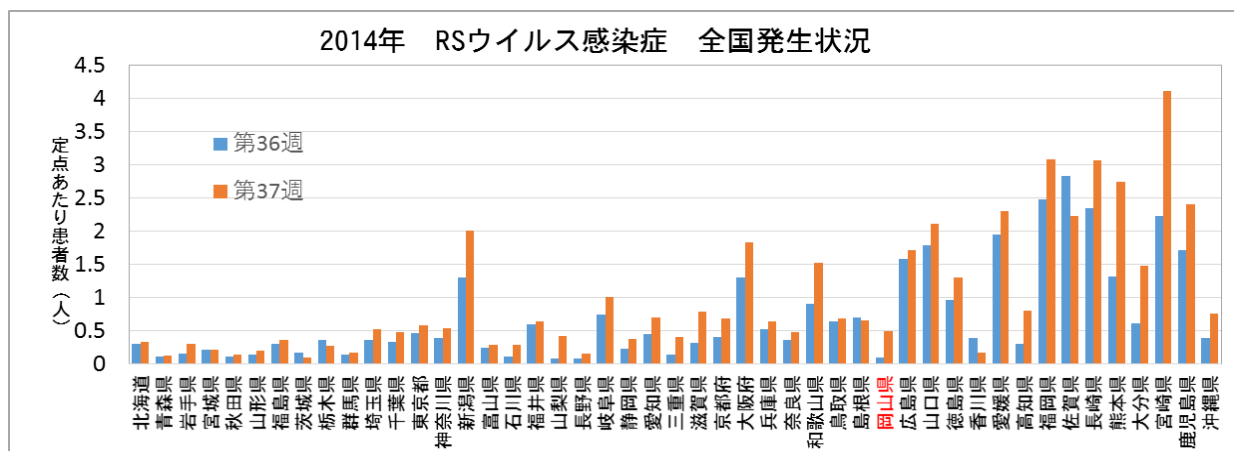
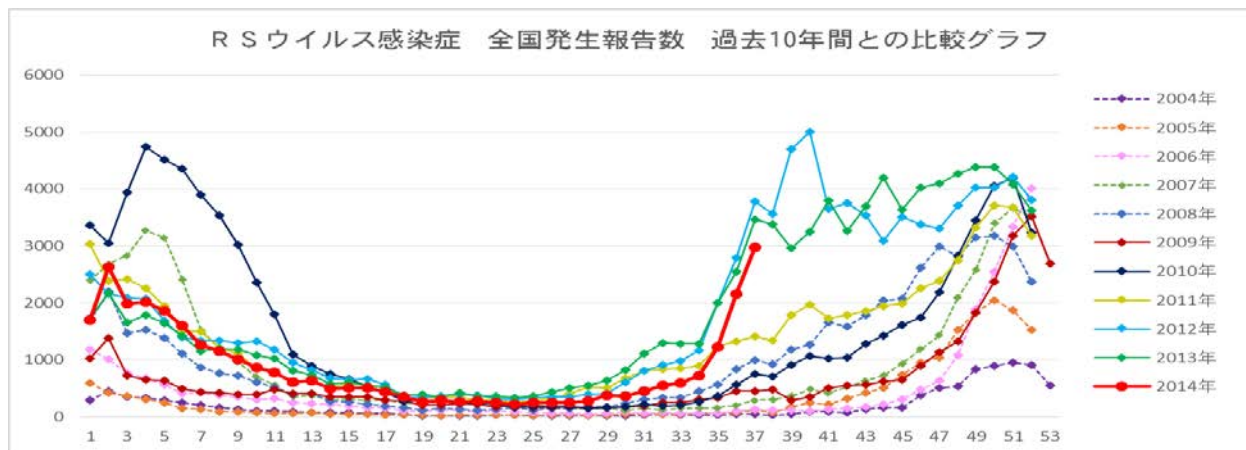
感染している人が、咳やくしゃみをした際に飛び散るしぶきを浴びて、ウイルスを吸い込む飛沫感染や、ウイルスがついている手指や物品を触ったり舐めたりすることなどによる、間接的な接触感染で感染します。

【治療】

特効薬はないため、症状に応じた対症療法を行います。

【発生状況】

2014年、全国の子患者報告数は昨年に比べて低い状態で推移していましたが、第31週（7/28～8/3）から徐々に増加し、第35週（8/25～8/31）から3週連続で急激な増加が続いています。第37週全国集計によると、西日本を中心に報告数が増加しており、宮崎県（4.10人）、福岡県及び長崎県（3.10人）の順で定点あたりの報告数が多くなっています。また、1歳以下の乳児が、全体の約74%を占めています。



岡山県では、全国と比較して報告数は少ない状況ですが、第37週（9/8～9/14）から岡山市、倉敷市、美作地域での報告数が増加しています。

この感染症は、乳児が感染すると重症化する恐れがあります。今後の発生状況に注意するとともに、乳児がいる家庭では、特に感染予防に努めて下さい。お子さんの体調が悪いときは、早めに医療機関を受診してください。

[RSウイルス感染症とは（国立感染症研究所）](#)

[RSウイルス感染症に関するQ&A（厚生労働省）](#)

保健所別報告患者数 2014年 38週 (2014/09/15～2014/09/21)

2014年9月24日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
RSウイルス感染症	25	0.46	6	0.43	12	1.09	—	—	1	0.14	—	—	—	—	6	1.00
咽頭結膜熱	15	0.28	2	0.14	—	—	1	0.10	1	0.14	—	—	—	—	11	1.83
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	37	0.69	9	0.64	17	1.55	3	0.30	—	—	—	—	3	1.50	5	0.83
感染性胃腸炎	247	4.57	51	3.64	60	5.45	47	4.70	12	1.71	21	5.25	8	4.00	48	8.00
水痘	24	0.44	8	0.57	2	0.18	—	—	14	2.00	—	—	—	—	—	—
手足口病	17	0.31	2	0.14	2	0.18	3	0.30	1	0.14	4	1.00	—	—	5	0.83
伝染性紅斑	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
突発性発疹	21	0.39	6	0.43	8	0.73	2	0.20	—	—	1	0.25	—	—	4	0.67
百日咳	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ヘルパンギーナ	10	0.19	3	0.21	1	0.09	1	0.10	2	0.29	3	0.75	—	—	—	—
流行性耳下腺炎	10	0.19	3	0.21	3	0.27	2	0.20	2	0.29	—	—	—	—	—	—
急性出血性結膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
流行性角結膜炎	7	0.58	3	0.60	4	1.00	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
細菌性髄膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
無菌性髄膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
マイコプラズマ肺炎	1	0.20	—	—	1	1.00	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
クラミジア肺炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	1	0.20	—	—	1	1.00	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

(— : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

保健所別報告患者数 2014年 38週 (2014/09/15～2014/09/21)

2014年9月24日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
咽頭結膜熱	15	0.28	2	0.14	—	—	1	0.10	1	0.14	—	—	—	—	11	1.83
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	37	0.69	9	0.64	17	1.55	3	0.30	—	—	—	—	3	1.50	5	0.83
感染性胃腸炎	247	4.57	51	3.64	60	5.45	47	4.70	12	1.71	21	5.25	8	4.00	48	8.00
水痘	24	0.44	8	0.57	2	0.18	—	—	14	2.00	—	—	—	—	—	—
手足口病	17	0.31	2	0.14	2	0.18	3	0.30	1	0.14	4	1.00	—	—	5	0.83
伝染性紅斑	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
百日咳	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ヘルパンギーナ	10	0.19	3	0.21	1	0.09	1	0.10	2	0.29	3	0.75	—	—	—	—
流行性耳下腺炎	10	0.19	3	0.21	3	0.27	2	0.20	2	0.29	—	—	—	—	—	—
急性出血性結膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
流行性角結膜炎	7	0.58	3	0.60	4	1.00	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

今週、岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2、レベル3に該当するものではありませんでした。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (2014年 第38週 2014/09/15～2014/09/21)

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～
インフルエンザ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～
RSウイルス感染症	25	7	8	8	2	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
咽頭結膜熱	15	－	－	3	4	2	1	2	2	1	－	－	－	－	－
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	37	－	－	－	2	5	5	4	5	6	1	－	5	1	3
感染性胃腸炎	247	5	27	50	14	27	22	9	7	8	10	6	20	15	27
水痘	24	1	1	－	3	4	4	－	3	4	2	2	－	－	－
手足口病	17	－	1	4	2	－	1	4	2	－	1	1	1	－	－
伝染性紅斑	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
突発性発疹	21	－	8	13	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
百日咳	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
ヘルパンギーナ	10	－	1	1	2	2	3	1	－	－	－	－	－	－	－
流行性耳下腺炎	10	－	－	－	－	1	1	1	－	2	4	－	1	－	－

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	7	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	4

疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0)

全数把握 感染症患者発生状況

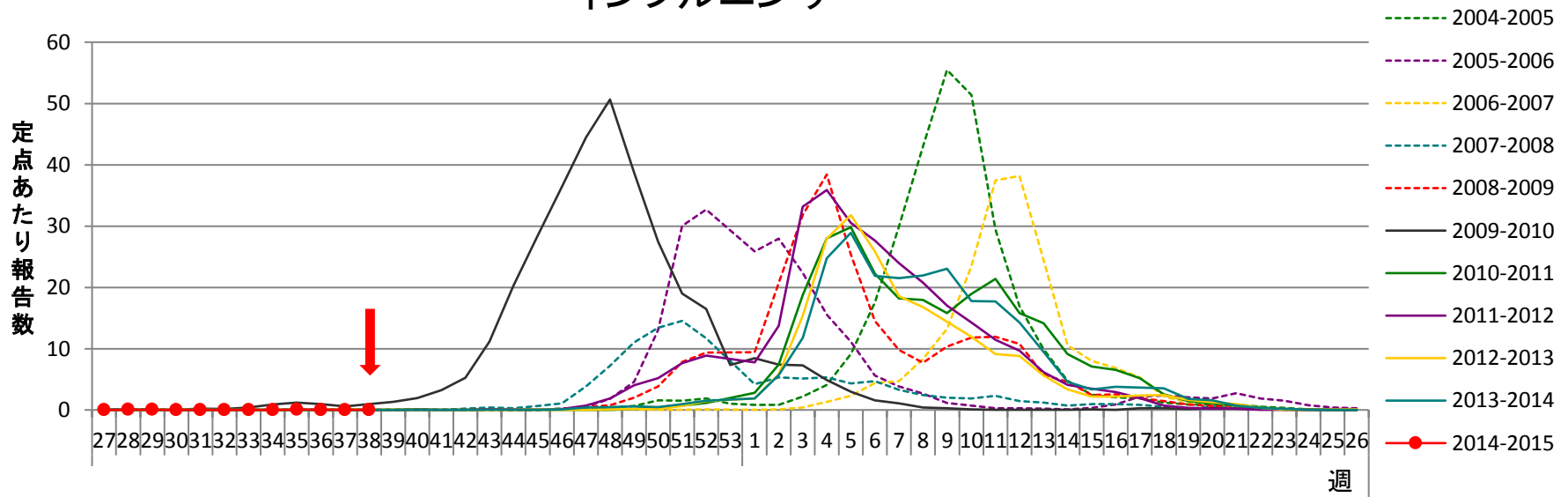
2014 年 38 週

分類	疾病名	2014		2013	疾病名	2014		2013	疾病名	2014		2013
		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年
一類	エボラ出血熱	－	－	－	クリミア・コンゴ出血熱	－	－	－	痘そう	－	－	－
	南米出血熱	－	－	－	ペスト	－	－	－	マールブルグ病	－	－	－
	ラッサ熱	－	－	－		－	－	－		－	－	－
二類	急性灰白髄炎	－	－	－	結核	3	265	358	ジフテリア	－	－	－
	重症急性呼吸器症候群	－	－	－	鳥インフルエンザ(H5N1)	－	－	－		－	－	－
三類	コレラ	－	－	－	細菌性赤痢	－	－	－	腸管出血性大腸菌感染症	－	60	87
	腸チフス	－	－	1	パラチフス	－	－	－		－	－	－
四類	E型肝炎	－	1	－	ウエストナイル熱	－	－	－	A型肝炎	－	6	5
	エキノкокクス症	－	－	－	黄熱	－	－	－	オウム病	－	－	－
	オムスク出血熱	－	－	－	回帰熱	－	－	－	キャサヌル森林病	－	－	－
	Q熱	－	－	－	狂犬病	－	－	－	コクシジオイデス症	－	－	－
	サル痘	－	－	－	重症熱性血小板減少症候群	－	2	2	腎症候性出血熱	－	－	－
	西部ウマ脳炎	－	－	－	ダニ媒介脳炎	－	－	－	炭疽	－	－	－
	チクングニア熱	－	－	－	つつが虫病	－	1	－	デング熱	－	1	－
	東部ウマ脳炎	－	－	－	鳥インフルエンザ	－	－	－	ニパウイルス感染症	－	－	－
	日本脳炎	－	－	1	日本紅斑熱	1	4	2	ハンタウイルス肺症候群	－	－	－
	Bウイルス病	－	－	－	鼻疽	－	－	－	ブルセラ症	－	－	－
	ベネズエラウマ脳炎	－	－	－	ヘンドラウイルス感染症	－	－	－	発しんチフス	－	－	－
	ボツリヌス症	－	－	－	マラリア	－	－	1	野兎病	－	－	－
	ライム病	－	－	－	リッサウイルス感染症	－	－	－	リフトバレー熱	－	－	－
	類鼻疽	－	－	－	レジオネラ症	－	22	24	レプトスピラ症	－	－	2
	ロッキー山紅斑熱	－	－	－		－	－	－		－	－	－
五類	アメーバ赤痢	－	7	20	ウイルス性肝炎*3	－	6	13	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染	－	－	－
	急性脳炎*4	－	8	5	クリプトスポリジウム症	－	－	－	クロイツフェルト・ヤコブ病	－	－	4
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	－	3	3	後天性免疫不全症候群	－	16	18	ジアルジア症	－	－	1
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	－	－	1	侵襲性髄膜炎菌感染症	－	－	－	侵襲性肺炎球菌感染症	－	18	20
	水痘(入院例に限る。)	－	－	－	先天性風しん症候群	－	－	－	梅毒	－	13	8
	播種性クリプトкокクス症	－	－	－	破傷風	1	1	4	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染	－	－	－
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	－	1	1	風しん	－	2	76	麻しん	－	6	3
	薬剤耐性アシネトバクター感染症	－	－	－		－	－	－		－	－	－

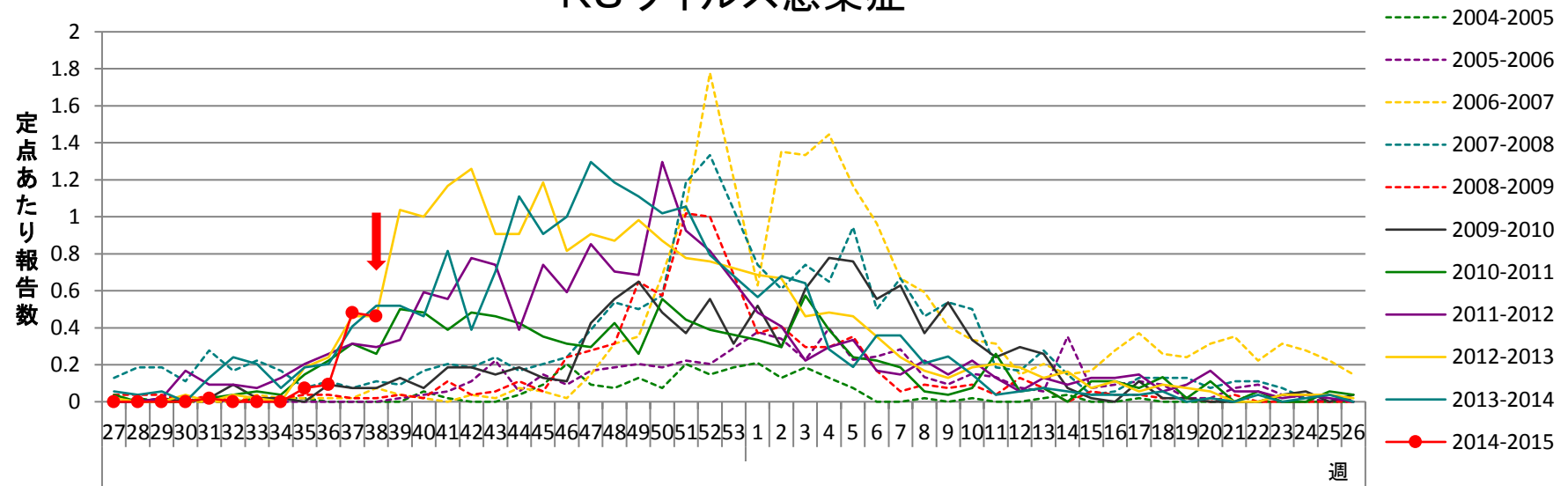
※今週から、全数把握感染症（五類）に次の感染症が追加され、集計対象になります。

- ・カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症
- ・水痘（入院例に限る。）
- ・播種性クリプトкокクス症
- ・薬剤耐性アシネトバクター感染症

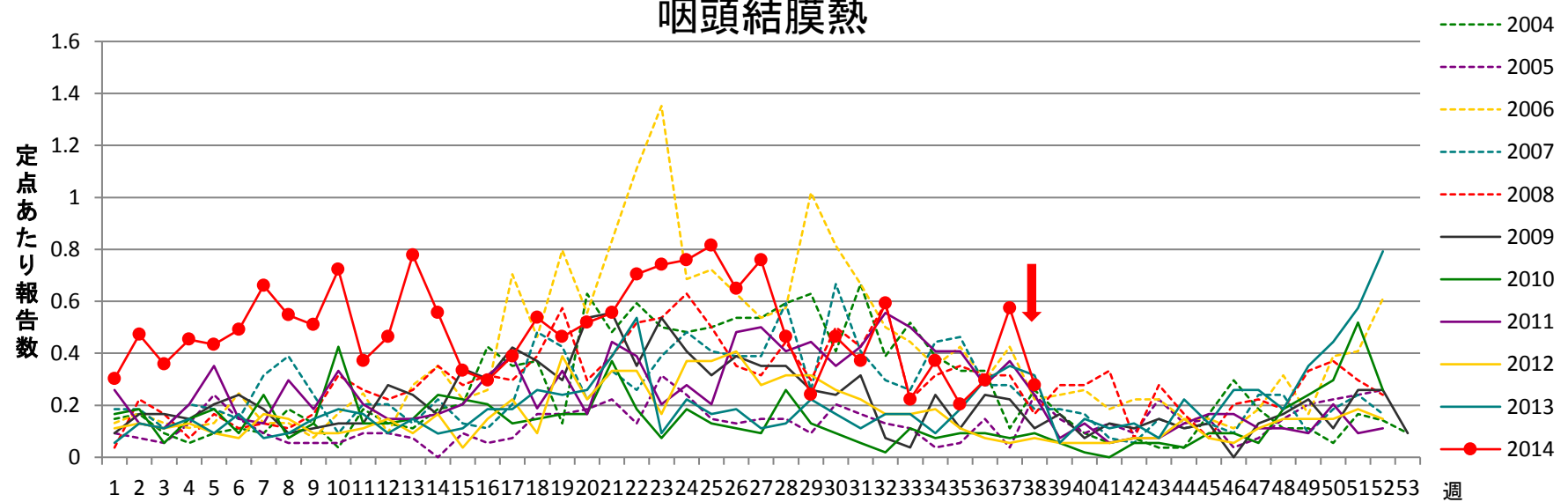
インフルエンザ



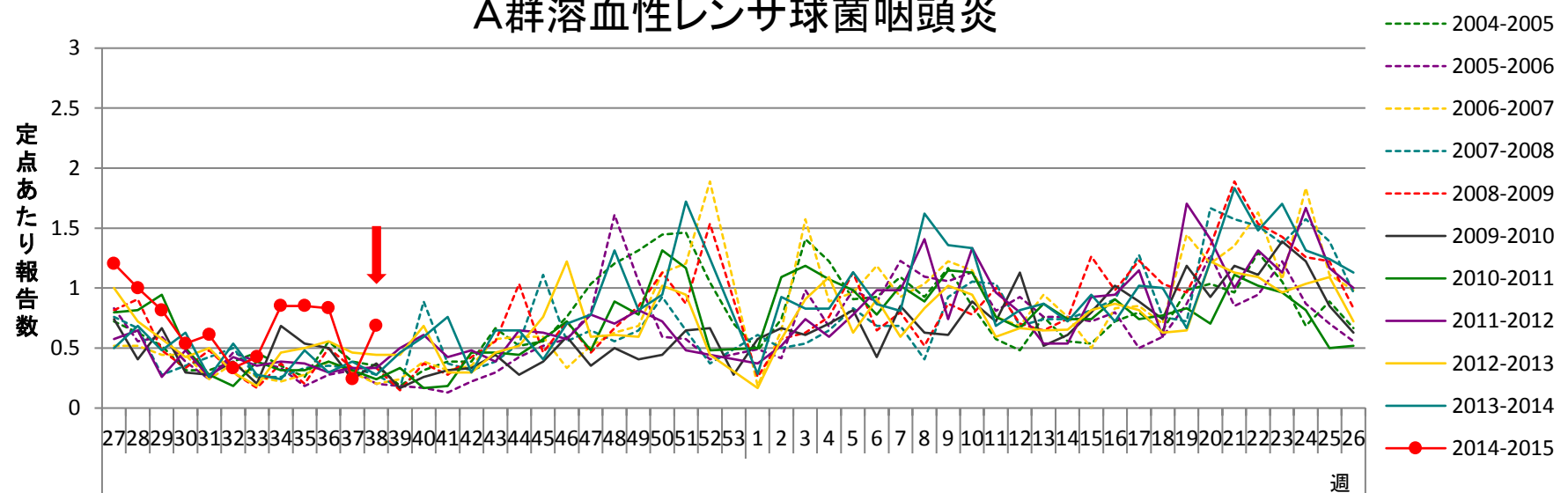
RSウイルス感染症



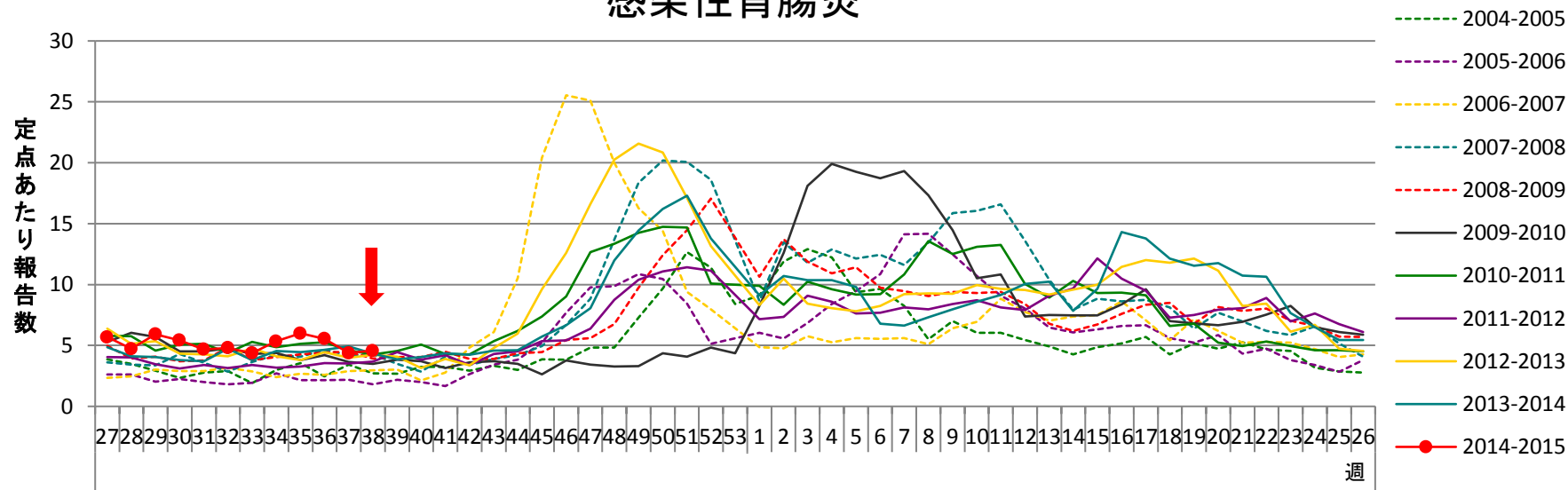
咽頭結膜熱



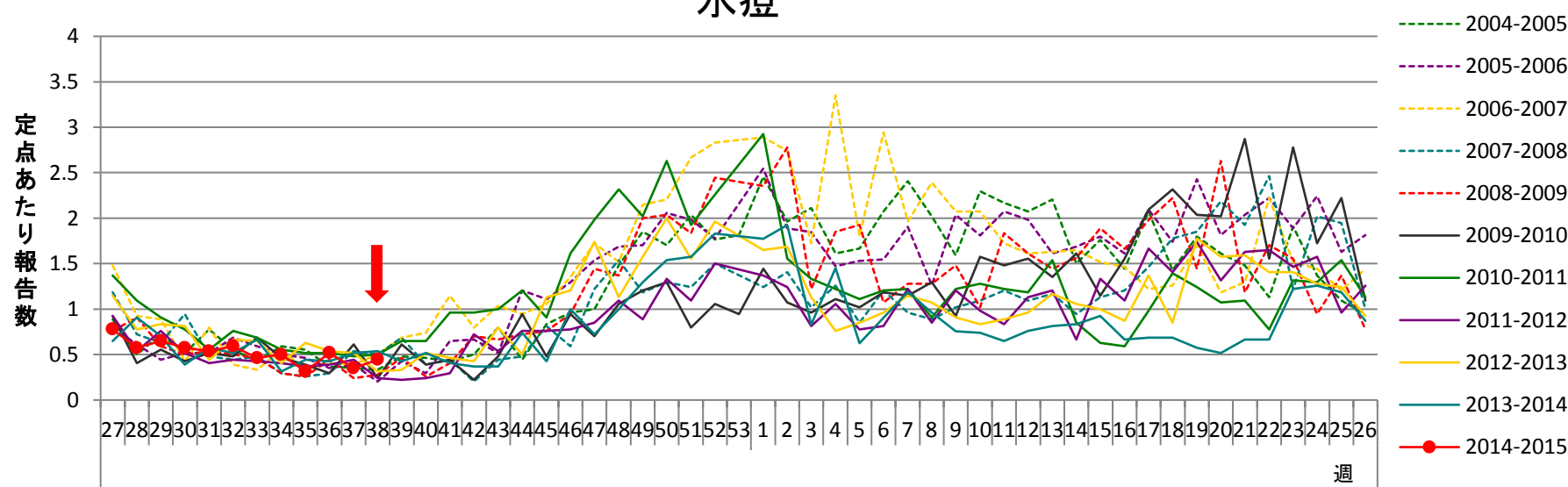
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



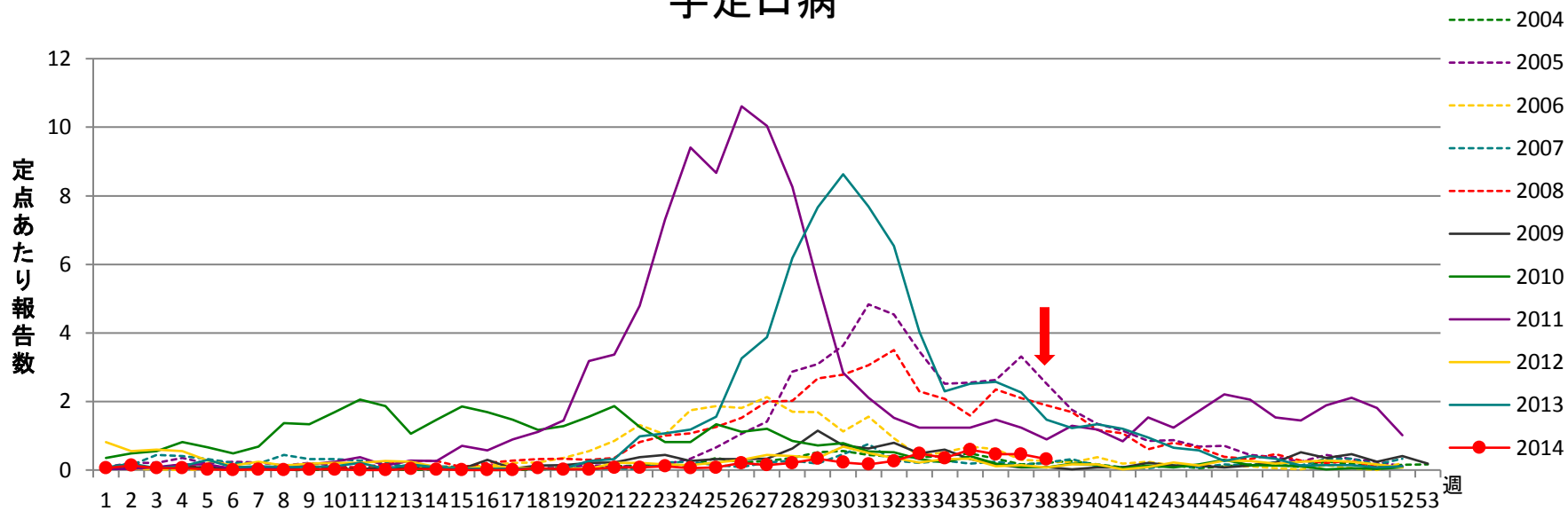
感染性胃腸炎



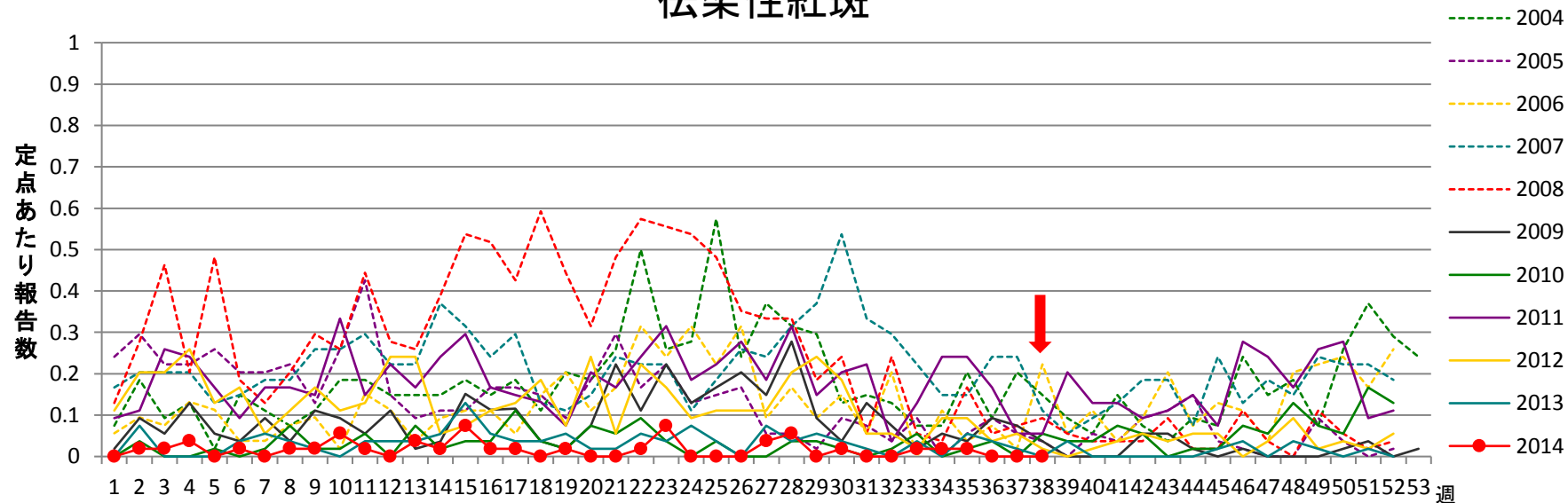
水痘



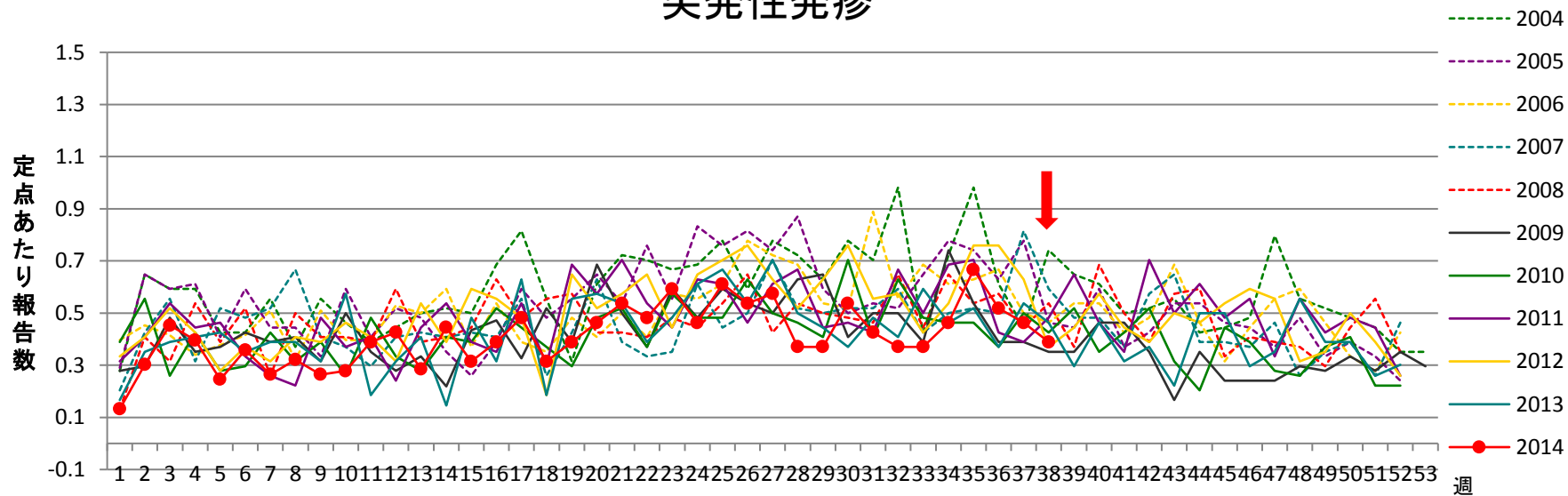
手足口病



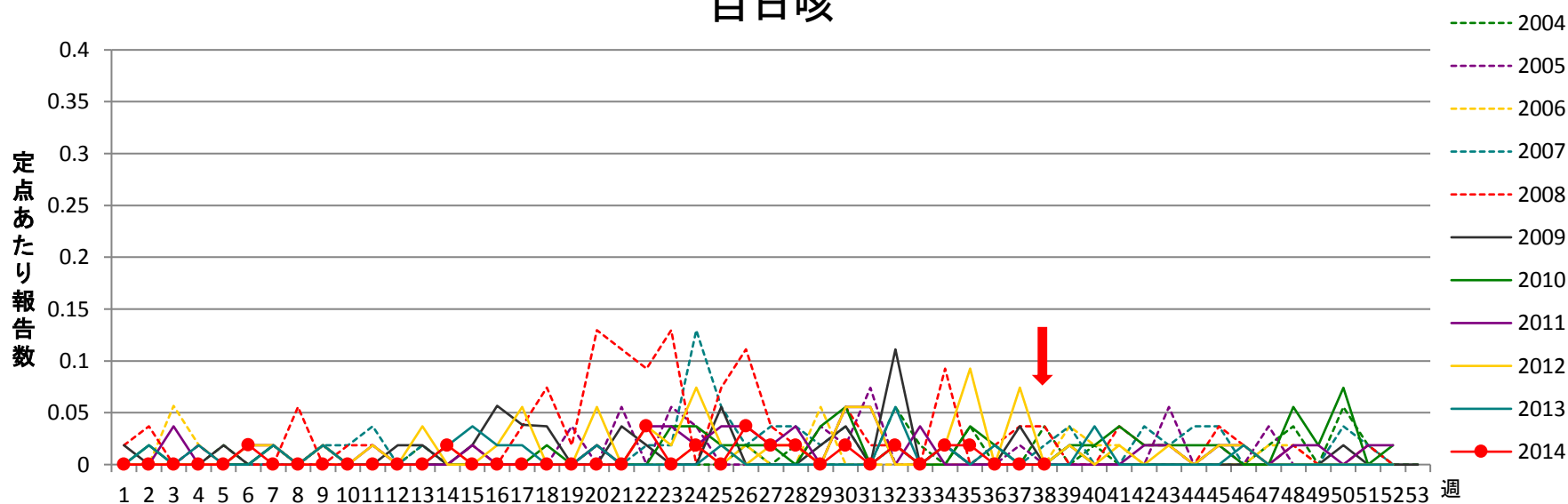
伝染性紅斑



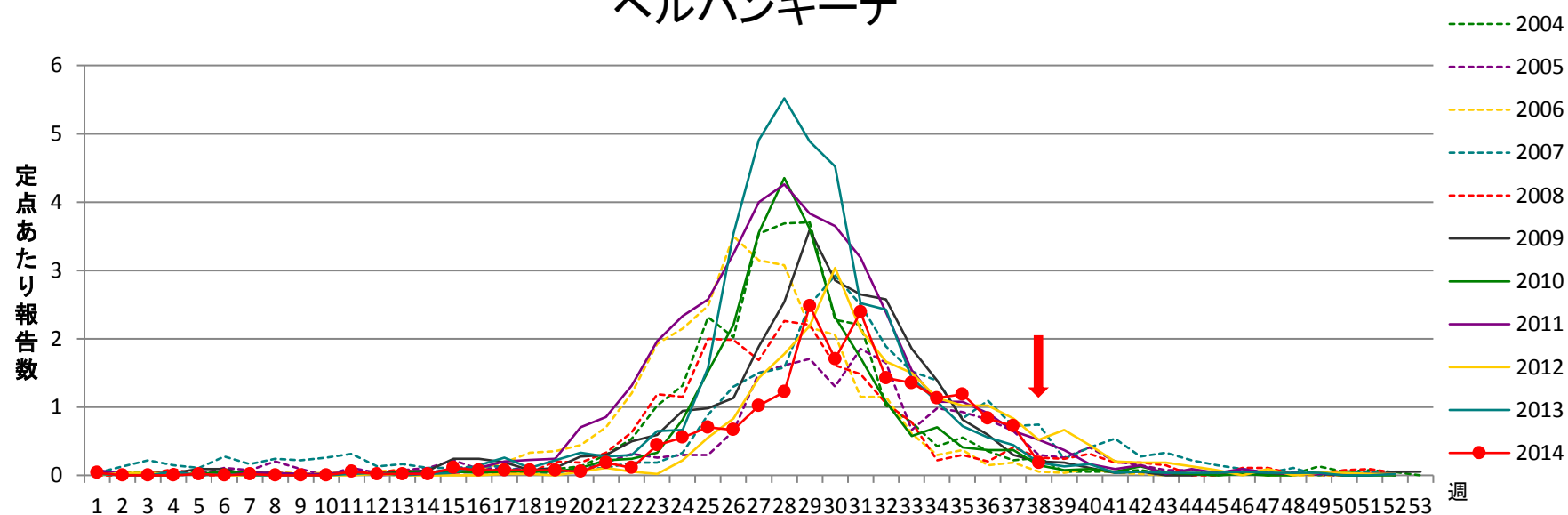
突発性発疹



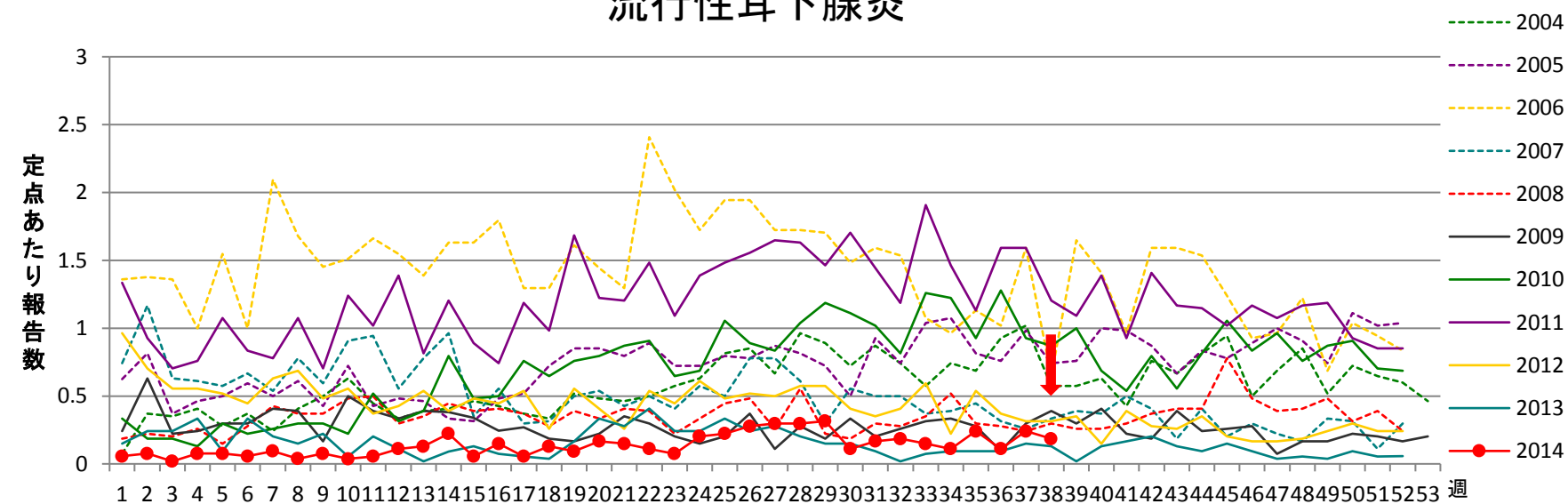
百日咳



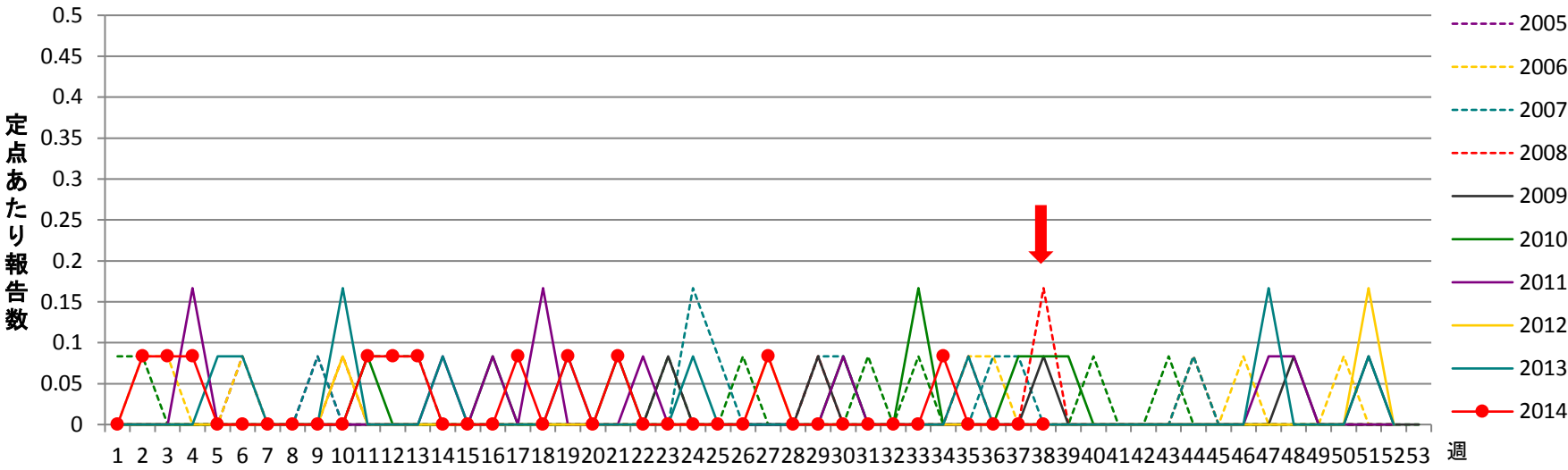
ヘルパンギーナ



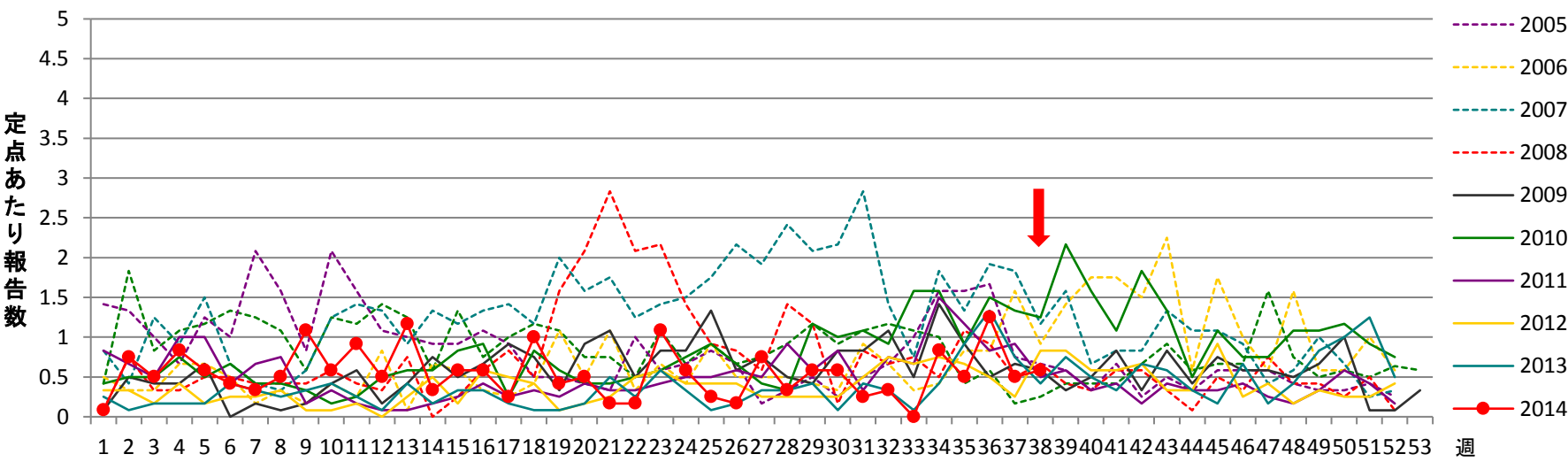
流行性耳下腺炎



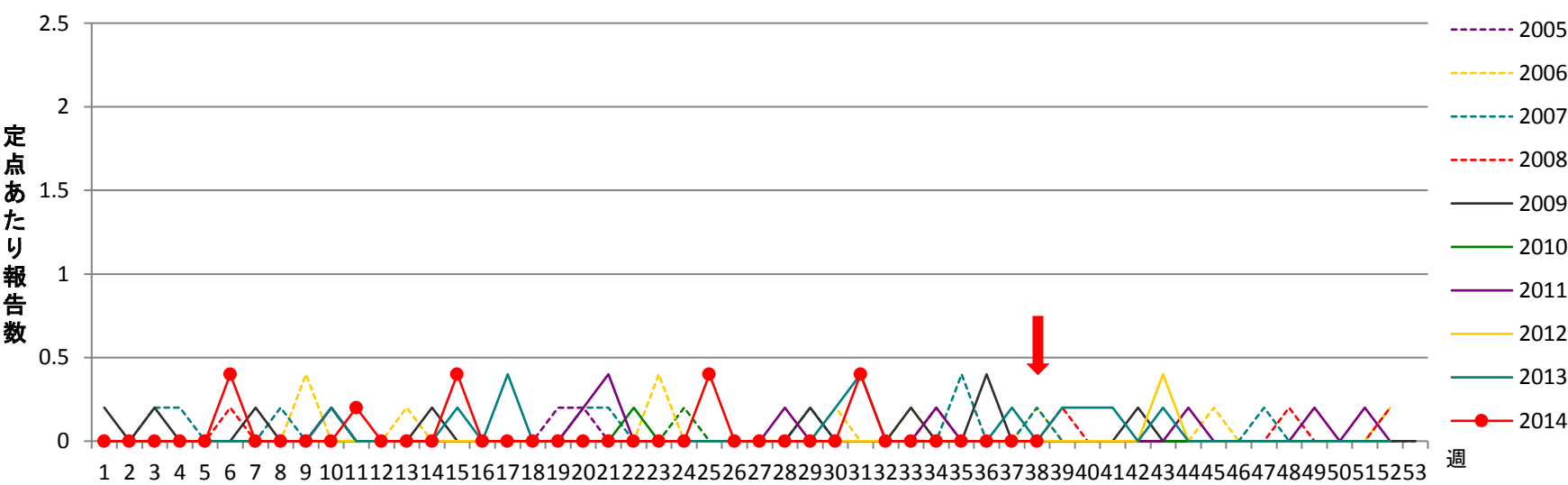
急性出血性結膜炎



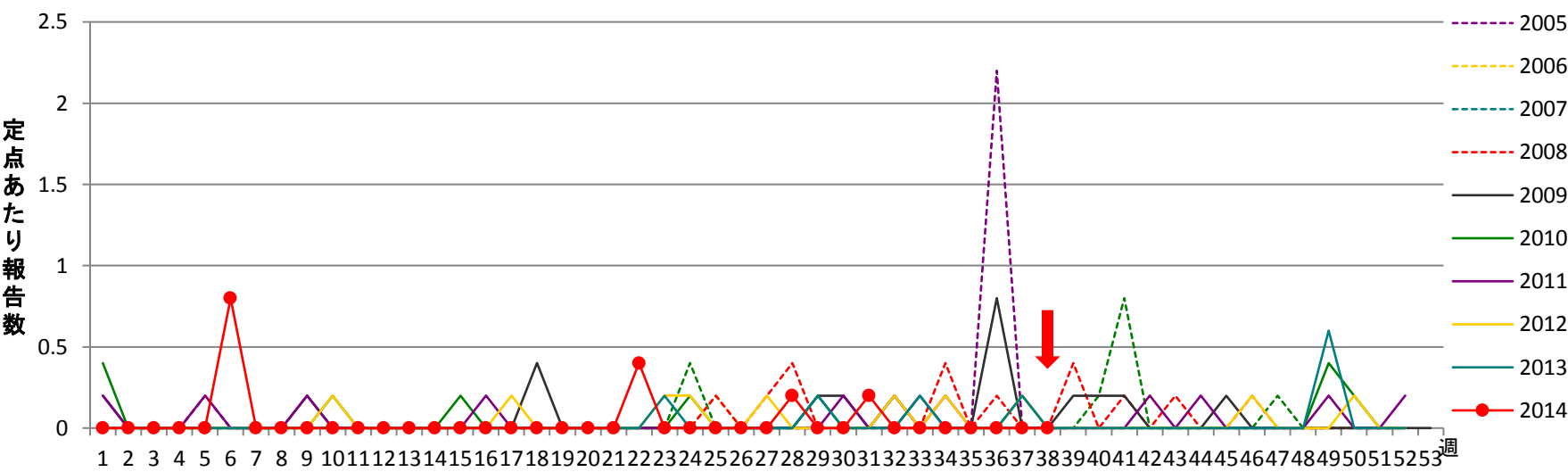
流行性角結膜炎



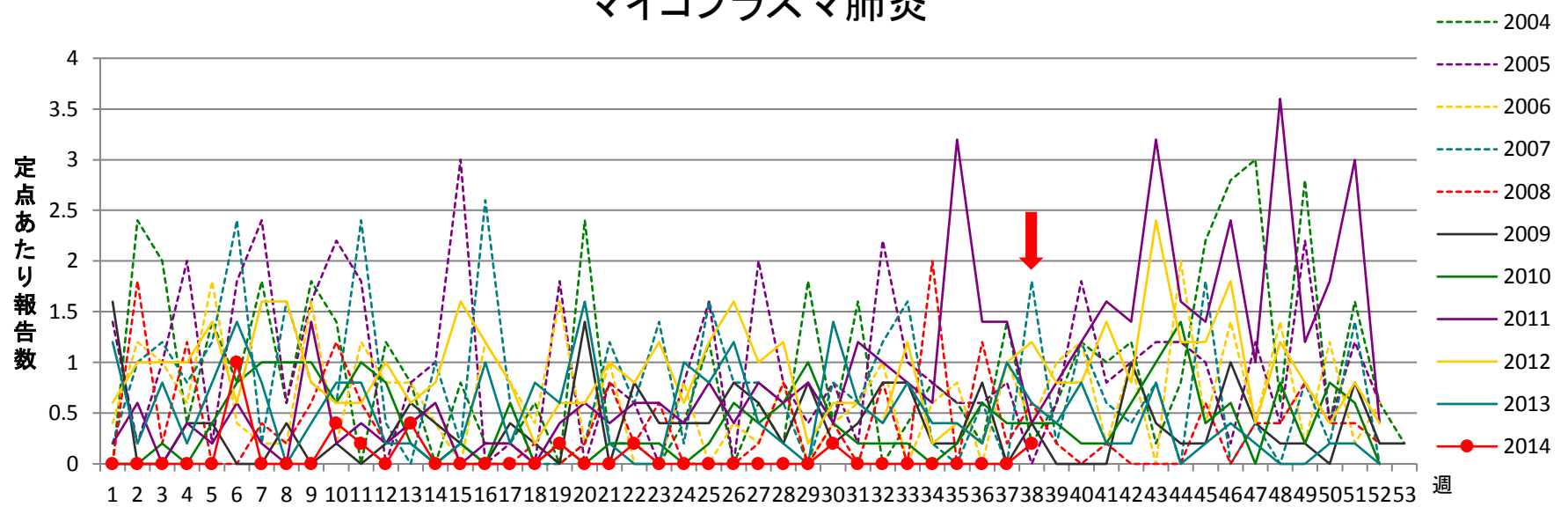
細菌性髄膜炎



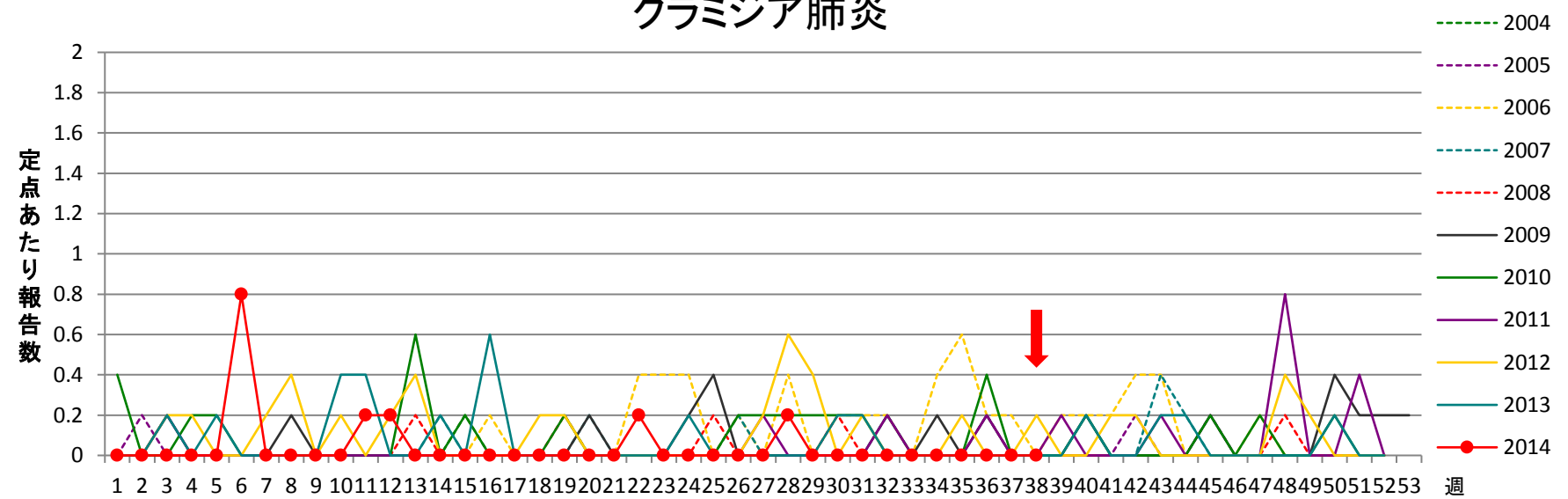
無菌性髄膜炎



マイコプラズマ肺炎



クラミジア肺炎



感染性胃腸炎(ロタウイルス)

